

横澤健康増進課長。〔健康増進課長 横澤幸子君登壇〕

○健康増進課長（横澤幸子君）

上越地域におきましては、それぞれの病院の役割分担というのができておまして、上越市に救命救急センターが基幹的病院が立地しております。そこで高度専門的医療を担っていただいております。あと各地域の基幹病院においては、急性期医療ですとか、僻地医療を担うなど役割分担ができておりますので、そのあたりを地域医療構想の会議の中で今後とも連携を図るように、協議を進めておりますし、今後も協議を継続していく予定でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

新保議員。

○8番（新保峰孝君）

終わります。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で新保議員の質問が終わりました。

暫時休憩いたします。

再開を20分といたします。

〈午後3時09分 休憩〉

〈午後3時20分 開議〉

○議長（五十嵐健一郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、高澤 公議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

創生クラブの高澤です。よろしくお願ひいたします。一般質問の前ですが、私の質問は大きく5つにわけてありますけれども、みんな関連することですので、番号順に進まなくて前後対象として進むと思っておりますが、よろしくお願ひいたします。

それと事前に、議長にお願ひして資料を提出していただいておりますので、その資料にも少し触れますが、よろしくお願ひいたします。

指導主事について伺います。

合併後、広範囲となった糸魚川市では、糸魚川、能生、青海の各地域が、教育において平準的な進展するように、4年間に限り各地域に指導主事を配置することが合意がなされたと伺っています。現在の指導主事4人に、嘱託指導主事2人の体制は、いつどのようにして決められたのでしょうか。

2番目、近隣類似市（上越市は除く）は、指導主事1人で大過なく行っているのに、糸魚川市は

どうして多くの指導主事が必要なのでしょうか。

3番、合併後の指導主事はどのような仕事をして、どのような成果を上げてきたのでしょうか。

4、合併後の指導主事、嘱託指導主事に支払われた人件費は総額で幾らでしょうか。

5、市内中学校のいじめ問題では、暴力を戒め、今後同じような事案が発生しないよう努めることは重要であります。同時に子供の能力を伸ばすことも大事なことであります。これらはどのような方針、方法で行うのでしょうか。

1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

高澤議員の御質問にお答えいたします。

1点目につきましては、合併後は4人体制でスタートし、現在は6人体制となっております。なお、嘱託指導主事の増員理由は、生徒指導の強化や発達支援に関する業務が増加したものであります。

2点目につきましては、仕事量やその専門性において、必要な人員を確保しているものであります。

3点目につきましては、子ども一貫教育方針に掲げる子供の育成について、学校をきめ細かく訪問し、支援、指導をいたしております。また喫緊の諸課題を解決するための教職員向けの研修や、地域連携を進めるためのコミュニティスクールなどの各種事業を行っており、各校がさまざまな教育効果を上げられるよう支援してきたことが成果と考えます。

4点目につきましては、合併後の平成17年度から29年度までの総額は、約5億4,000万円になります。

5点目につきましては、学校、社会体育団体、教育委員会の3者で協議を進め、いじめ重大事態が起きないように連携を密にしていくことを確認しております。さまざまな競技を頑張る子供も出てきていますので、教育委員会としても子供の夢をかなえ、意欲を伸ばせるよう協力、支援してまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願ひ申し上げます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

ありがとうございました。再質問に入りますが、指導主事4人、嘱託指導主事2人、この体制はどうして現在そうなったのか、もうちょっと詳しくお願ひします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

合併当時その前は糸魚川に2人、そして能生に1人、青海に1人指導主事がおりました。合併が平成17年の3月であります。合併後すぐにこの庁舎にその糸魚川2名、青海1名、能生1名の指導主事が入り、教育委員会の中で仕事をスタートさせました。嘱託指導主事につきましては、平成23年にまず1人教育相談関係で入りまして、平成26年に2人となり、嘱託指導主事については仕事の増減が多少ありまして、でも大体毎年指導主事4名、嘱託指導主事2名でやってまいりました。今年度につきましては1名嘱託指導主事をふやしていただきまして、嘱託指導主事は3名となっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

先ほど教育長の答弁では、私も詳しくは伺ってなかったんですけど、近隣市、近隣類似市の指導主事の関係はどうなっておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

上越市を除きますと、例えば妙高市は、嘱託指導主事も合わせての数になりますが5名、柏崎市は10名、十日町は11名、あと人口が近いということで、例えば五泉市は3名、阿賀野市は6名、魚沼市は8名、南魚沼市は9名、と都市によってこれは子供の数ですとか、学校の数によって大分事情は異なるようです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

類似市においても、かなりの数があることがわかりました。私の聞いていたこととちょっと事情が違いますが、質問を続けさせていただきます。

この嘱託員の従事しているのは、糸魚川市が要望したのか、あるいは県の教育委員会が糸魚川市に要請したのか、これはどちらですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

嘱託指導主事につきましては、教育委員会でこの仕事はどうしても間に合わない、膨大であると

いうことをお願いをしております。

指導主事につきましては、これは法律がありまして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律というのがありまして、その18条の2に市町村におかれる教育委員会の事務局に指導主事、その他職員を置くというふうになっております。それで県の人事異動にのっとりまして、ここに今指導主事がきているということになります。

○19番（高澤 公君）

答弁に答えてないじゃん。

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

失礼いたしました。糸魚川市のほうで、これだけの人数が欲しいということで要請はしております。それに対して県教委で、この人ということで人事異動をしているということになります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

市町村の教育委員会に主事を置くということは、法律で決められとるとは私知っとるんですが、今、糸魚川市が行政改革で職員数を減らしていこうということをやっておりますが、これだけの人数を要請してるってことは、教育長ちょっとその方針と違うような気もするんですが、どうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

子供たちの教育環境を整え、学校との連携、また地域の連携をするには人員はマンパワーということで、多いに越したことはございませんが、先ほど答弁で申し上げましたが、合併時の人数をそれを基本として、今県教委にもお願いをしてくださっているところであります。

それから合併時になかったものとして、2人の嘱託の指導主事という方のお願いをしております。こちらについては、県教委からではなくて、市の教育委員会が退職教員等の人材の方においでをいただきまして、それぞれの専門性を生かした中で、先ほどお話をしました生徒指導とか、学習支援とか発達支援とか、そういうものに対してのふえてきた業務に対して、対応をしているものでございます。先ほど他市の例も話をさせていただきましたが、糸魚川市においても必要な人数であると、今現在では必要な人数について、お願いをしているというものでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

必要な人数とはいえ、県の職員であっても、人件費は糸魚川市が負担しているわけですね。そういうところを考えると、やっぱり糸魚川市が目指している行政改革というものに、沿った考えもあ

っていいんじゃないかと私は思うんで、十分に参考にしてもらいたいと思いますが、それでそれだけ多くの指導主事がいながら、学力不足という問題は解決していない。あるいは、いじめの問題も繰り返し起きている。そのほかに保育所や学校での不適切な会計処理問題もあった。いろいろ問題があるんですが、そういうものに対して、指導主事はどういうふうに指導しておるんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

基本課題があれば、それに対して何を必要かということ进行分析しまして、それに対応できるような研修は行っております。また指導に直接行って指導したり、相談したりという活動を行っております。学力のお話もありましたが、先日滝川議員のときにお話になりました、全国学力学習状況調査では中学生については、非常に困った状況もありましたが、もう一方標準学力検査というのが毎年ありまして、そこでは中学校も平均では全国平均をちょっとですが、上回っています。つまり学力も非常に各学校で頑張ってください、今成績を上げているところであります。

またいじめも非常に多くの件、小さいときから見逃さないようにして、重大事態に至らないようにと努力をしていますが、それも指導主事がかなり細かく学校に行って、相談したり、指導してる成果だと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

補足をさせていただきますが、不適切な会計処理についてはどうしているかということなんですけども、そちらにつきましては指導主事ではなくて、行政職員のほうで担当させていただいております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

いろいろと問題があるんですが、中でも20年も30年も前から学力が上がらん、ということでいろいろと言われてきておりました。

それで姫川病院の閉鎖の原因の1つに医師不足というのがありましたよね。でその医師不足の原因の1つに学力が足りん。医者が家族を連れて糸魚川に来ないという問題があった。それを教育長ご存じですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

医師不足については、いろいろな理由から全国各地で問題となっているところでございます。糸魚川においても全国と同じ状況ではございますが、その中でも学力、あるいは学習環境をお医者さんの親の方々が判断されるということは、聞いたことは私としてはございますが、そのことだけで糸魚川に来れないかどうかというところについての検証はしてはございませんが、全体的なものの中で医師が不足されておるということを確認しております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

医師不足の中の問題の要因の中に、学力が足りんということもあるってことはご存じだということですよ。

それで今度は新しい問題が起きとるんですよ。というのは、今度は会社員が家族を連れて来ない、単身赴任で来ると。

それで富山県の話ですが、YKKが本社機能を黒部市に移しました。それでYKKの社員は喜んで黒部にやって来るというんですよ。何でかというと、教育環境がいい、自然がいっぱいあると、それに加えて、学力のレベルが高いと。東京におたつて学力なんてピンからキリまでありますから、黒部は相対的に高いから喜んで引っ越しして来る。そういう状況があるらしいですね。

この学力検査が始まったころは、富山県も新潟県もそう対して変わりなかったんだけど、今はもう富山県は全国でもトップレベルの教育県ですよ。黒部市もやはり人口減少は避けて通れない問題である。だけど出生率が高いと、上がってるっていうんですよ。これはやっぱり若い人たちが移住して来るからです。そこにはやっぱり学力の問題があると、みんな喜んで来る。富山県全体としても人口減の比率ってというのは新潟県より小さいですよ。糸魚川市はそういう関係もあって、もうすぐ4万3,000人もきってしまうような、人口減に歯どめがかからない状況であります。教育長、来年度の青海小学校の入学生は何人でしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

今手元に入学生の人数がございませんので、後ほどお答えをさせていただきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

井川教育次長。〔教育次長 井川賢一君登壇〕

○教育次長（井川賢一君）

ちょっと数字古いんですけども、ことしの5月1日現在の5歳児の数が15人ということですよ。

で、その人数が入学対象者と思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

井川次長の数字はちょっと古いかもしれんね。最悪の場合一桁になるかもしれん。それはやっぱり青海のもともとの中心校であった学校であって、しかもあんだけ大きな工場が控えておるのに、人口がふえていかない。やっぱりこれはさっき言ったような学力の問題が尾を引いておるんですよ。それをやっぱりみんな自覚してもらわんなわね。

青海地域では市振、玉ノ木、上路地域ではかなりの人口がもう流出していっております。それもほとんどが富山県に行っておりますね。今後市全体の総務部では人口減少をとめようと思って、移住、定住者の増を図って頑張っておる。また産業部では、例えば地元の第一次産業の活性化のようなもので地域拡張をして何とかしようと思って頑張っておる。また市民部でもこれ1つの例ですが、地域医療を充実させて、住みよい糸魚川を目指して頑張っておる。

それなのに、みんな頑張っておるのに、肝心の教育のレベルが上がっていかないということは、非常に大きな問題ですよ、これはね。教育レベルが上がっていかなければ、みんながやってる事業が成功しないんですよ。人口がふえていかない、減っていくばかりだということは、糸魚川市の存続にもかかわってきます。最終的には糸魚川市がなくなるかもしれない。こういうふうなもの相対的に見た中で、学力というものは大事だということを教育長はどういうふうと考えて、今まで指導してきました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

子ども一貫教育を掲げて、糸魚川市は教育行政を推進をいたしております。その中の3本の中に確かな学力ということで、学力の向上も大事な重要な項目でございまして、学力向上に向けて、また学校と地域とそれから家庭とそれぞれのところで連携をして、子供たちを支えていくということで推進をしております。学力が教育レベルを上げていくような、ほかに向けてイメージをアップできるようなものに持っていきたいと思っておりますが、子育て環境の全体の充実ということもまた必要でございまして。学力ももちろんですが、健康でありますとか、体力でありますとか、心の豊かさでありますとか、そういうものを総合的に考えた中で、子供たちの育成を指導をしまいたいと思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

田原教育長が教育長になる前からその前の教育長、もっとその前の教育長のころから、そういう答弁なんです。同じような答弁なんです。頑張っていくという答弁、それはそれでいいんですが、じゃあいつになったら糸魚川の学力は向上するんですか。いつをめどに頑張っておるんですか。それをちょっと聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

学力の点だけで申し上げますと、今3年前から陰山メソッドを使った小学生の集中的な習慣的な学習能力を鍛えて、備えるための学習活動を進めております。ことしは3年目でございます。これを継続する中で少し長い目になりますけれども、推進をしまいたい。それから学力のデジタル化によりますものについては、総合計画の中で年度を定めて目標数値ということで定めてございます。そちらについては、定めておりますので別途答弁をさせていただきます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

平成33年に向けて小学校では、全国標準学力テストで55を目標にしております。中学校は52であります。先ほど話しましたそのNRTという検査ですが、小学校は53に到達という状況でありまして、中学校は50ちょっとでありますので、もう一踏ん張りして頑張りたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

教育長は今、陰山先生の話がされましたが、陰山先生が兵庫県の朝来町におったときから実績を上げてきて、もう20年も25年も前の話ですけどね。それをいい方法だというんで学んで学力をぐんと伸ばしたところが日本に幾つもあるんですよ、何カ所もあるんですよ。それを今になって、やっと糸魚川では陰山メソッドを入れようと、そういう気になったと、全国では急激に学力を伸ばしたところがあるんで、それを手本にやってもらいたいですよね。いつまでもただただやっておてもしょうがないんで。

私は今回の全国一斉学力テストの結果が非常に残念なんです。残念であると同時に、今までやってきたことはだめなんだと、そういう結果が出たのではないかと思うんですよ。今までどおりやってたんじゃないんです。何かどこかで変えていかないといかんやと、そういう結果が出た



んじゃないかと思うんですが、そういうふうに捉えていませんか。あなた方はどう思っています。今までどおりでいいと思ってますか。どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

今、中学校の3年生が春に向けたそのテストの結果は、私は一面的なものだと思っています。お話を前にいたしましたけれども、非常にまだ長文読解力等について課題がありますので、そういう課題を見つけ次第解決していくという方向でしか、なかなか難しいんじゃないかなというふうに思っています。これまでもいろいろな手を打ってきましたが、その成果も先ほど言いましたように、NRTという検査では出てきているということで、1つのテストで全てをはかるということではないというふうに私たちも考えてやっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

課長ね、1つのテストでものを考えるって私言っとるんでないんだよ。20年も同じペースできとる、そういうことを考えて言っとるんですよ。ずっときて今になってまた今回下がとる。上がってくるならいいけど、下がとる。それに対してあなた方はどう思っとるんだと、今までどおりでいいのか、そういうことを聞いとるんですよ。私は今回のものを残念だと言ったけど、それはずっと過去をたどってきてやっところして、やっぱり結論が出たねとなっところって言っとんですよ。真摯に捉えて頑張ってもらいたい。お願いしますよ。

それで、今度は能生中学校のいじめ問題に入りますけど、私は今回の問題ではその対処の仕方に、大きく欠落してる部分があったんじゃないかと見ております。それはいじめは、やってはいけない、いじめが起きないように厳しく管理、監督をする。これは大事なことです。やらなきゃいけないこと、それと同時にもう一つは子供の能力を伸ばしてやろう、最大限に子供の能力を伸ばしてやろうというそういうところが、ちょっと落ちてたんじゃないかと。いじめもそうやけど、常日ごろから発生しないように目配りをしていく、そこは大事なんですが、もう一つの切り口として、子供の能力を伸ばすというところが、ちょっと足りんじゃないかなと思うんですが、それについてはどうお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

いじめというのは、いつでもどこでも誰にでも起きることではありますが、とにかく重大事態にまで至らないように、早目、早目に手を打つことが大事だと思っております。子供たち一人一人の能

力を伸ばすということについては全く異論ございませんので、子供たち一人一人の思いに寄り添って、実現できるように準備はしてまいりたいと思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

いろんな経過を聞きながら、私なりに能生地区へ行っていろんな人と話をしてきました。能生の住民というか市民は、その相撲をやっている子供たちが登下校のときに会えば、大きな声で挨拶をしてくれる、そういうふうにも言ってますし、子供たちがいろんな大会に行っていていい成績を出してくる、よかったねと「おらも元気もらうんだ」と、そうやっている人たちもいる。で、子供が頑張る姿を見て、「いや、おらも頑張らんなんね」って「元気もらっとるんだ」とそういうこと言うんですよ。そういう人たちもいるんですよ。私はこれが市民の声だと思っております。

能生の人たちは今のいじめ問題で、落ち込んでいない。落ち込んでいるような話をしている人は余りいない。かつて能生水のころからの相撲の伝統がまた復活したということで、かえって喜んで人がいっぱいおるんですよ。そういうふうな市民の声っていうのは、あなた方知ってますか。どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

今ほど高澤議員がお話しされたようなことを私も感じております。能生地域においては、相撲の子供たちだけではなくて、地域全体であいさつ運動を進めておりまして、そういう風習になっております。いい慣習になっております。それから子供たちがいい成績をおさめるために、地域みんなで応援をしてそれでいい結果が出れば、元気をいただく、応援することにより一体感を醸成してきたということは認識をしているところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

たまたま今回は、いじめ重大事態という言葉で進んでいって残念なことなんですが、それでもみんなでも応援していこうというふうな風潮は、見られるということですよ。それと今は何のスポーツでも競技年齢が下がっております。相撲に関しても中学校の段階でも勧誘がある、スカウトが入るんですね。小学校のときにいい成績を出してた子供たちは、いわゆる私立の学校からスカウトされるんですよ。そういうふうに認めてもらって、いい成績を認めてもらって、スカウトされる子はいいんですが、成績を出せなかったけど相撲が好きなのは能生中学校へ来るんですね。何でか、私立っていうのは物すごくお金がかかるから、私立に行くとは言えない。やっぱり親の負担の軽い能

生へ行こうということで、希望して来るんです。それも11歳や12歳の小学校の段階ですよ。そういう小さい子供が親に負担かけちゃ困るっていうんで、公立学校の能生へ来る。そういう子供たちの親孝行な子供たちの活躍する場を取ってしまった。今のルールではね。子供たちが一人で来れないようなルールにしてしまった。それに対してどう思いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

まず先ほどの海洋高校の生徒につきましては、私も毎朝見ますけれども、非常に爽やかですばらしいし、実績も上げてます。またテレビも私2回見ましたが、非常にいい子たちで感動を覚えています。ただ今回重大事態が起きたということで、当然反省すべきはあったことだと思っていますし、それは2点であったと思っています。

1つ目はやはり心の問題、子供同士の心の問題と、それからそれを取り巻く大人の心の問題であります。

2つ目は構造的な問題でありまして、例えばもしいじめがその部活動の中で起きてしまったときに、24時間同じメンバーにいるということになりますと、これはもう逃げようがない、心情を吐露する場所もない、ということで重大事態につながりかねないということで、構造的な課題があるというふうに考えています。子供が相撲をしたいという気持ちで糸魚川に来る、非常に歓迎すべきことでありますので、できれば保護者と一緒に来ていただくというのが一番でありますし、それ以外の方法もしその子を迎えてくれる親戚等あるいは、それにかわるような人がいれば、そこに入るということについては、今協議をしているところでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

親と一緒に来なければいけないというルールは、これは実行可能なルールだとあなた方思ってます。どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

お答えします。

実行可能かどうかと問われますと、それは可能ですとも不可能ですとも言えません。そういう親子がいるかもしれませんので、来るなら親子が一番いいということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

答弁になったような、ならないようなおかしい答弁だけど、私は実行可能だとは思いません。1つの家庭で親が別れ別れに住んで、これ家庭崩壊ですよ。そういうことをあんた方は勧めとるんですよ。それはよく考えてもらわんなんわね。家庭崩壊を勧めとるん。実行可能じゃないでしょう、これじゃあ。子供は親に負担かけられんと思って能生へ来るのに、今度は家庭崩壊で来いって言ったって、子供は来るっていいですか。親と一緒に来ればいじめはないと思ってますか。どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

石川こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 石川清春君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（石川清春君）

まず、家庭崩壊は決して願っておりません。それからもう一つですが、親と一緒に来ればいじめはないかと、そういうことではありませんで、親と一緒に来た場合に最後いじめられてるんだという気持ちになったときに話せる、そういう相手がいると、私は最後にそういう心情を吐露できる場所こそがセーフティネットだと思っています。なので必要だということですが、どうしても親と一緒に来れないという場合について、今協議をしているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

それはね親と一緒に来て責任をかぶってくれば、あなた方楽かもしれないよ。私に言わせれば、そういう実行不可能なルールを決めて責任を転嫁しとるだけですよ、それは。全く子供のことを考えて、それじゃだめだと思いますよ。今までいじめが起きた、重大事態が起きた、それは親がいない子だったんでしょうか。親がおったってあったでしょう。あなた方が決めていくルールというのは、学校と教育委員会だけが有利になるようなルールですよ。で、何か言われると上手な言葉で答弁するけど、表向きは上手にやってるけど、内容は本当に学校と教育委員会だけ有利なルールです。私はそう言わざるを得んよね。

私は先ほども言いましたが、議長にお願いをして資料をいただきました。その資料を見ると事件が起きてからやることじゃなくて、その前から本来ならやっていかなければいけないことがいっぱい書いてある。今までやってなかった証拠でしょう、これは。

それで、今度は関係する各団体とコミュニケーションをとってやっていくんだと、そういうふうを書いてありますよね。それでその中で生徒の宿舎の問題として、寮の規則をつくるとか、衛生管理や健康管理を十分行うとか、生徒とコミュニケーションを図って心配事の相談を受けていくとか、5点ほど書いてありますわ。この内容を見ていくと、どうもこれは生涯学習課に係ってくる話なんじゃないかなと思うんですが、じゃ課長はここに書いてあるように、自分で調べに行くとか、あるいは部下に行ってもらうとか、そういうことをしに行きましたか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

ルールにつきましては、先ほど教育委員会と学校が有利なようにというお話、ご指摘もありましたけれども、3者が集まりまして、子供の健全な育成のためには、どういう環境づくりが必要かということでもとめたものでございますし、つくった後については、その中身が実践されているかどうかを確認をさせてもらっております。今ほど高澤議員ご指摘の課長ということでございますが、担当生涯学習の課長も含めまして、3者の協議の中でそういうところも確認しておりますし、練習場等の訪問をする中で生徒の動き、また学校での状況等を聞かせてもらっているところであります。以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員、指導主事の範囲内をお願いいたします。

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

今教育長が答えたように、やっておるんだったら何で生涯学習課長答えられんの。おれは今あなたに聞いたんだよ。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えいたします。

寄宿舎等につきましては、私も以前から訪問させてもらって、監督あるいは生徒等とお話もさせてもらってますし、現場のほうには何度も足を運んでおります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

学校とすれば、学期に1回程度の会議を開くと書いてあったですね。だけど学期に1回開くということは、会議にかけるということは議題も決めんなん。審議する内容も検討しなきゃいけない。集まった人にはその内容を説明しなきゃいけない。そのためには、回ってきていろいろ情報集めて会議を開かなきゃ会議の意味がないから、そういうような現場の調査とか、そういうことをしてやるんですか学校は。どうですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

学校におきましては、校長先生がこの3者の協議の中に入ってきておりますし、校長もみずから

宿舎それから練習場、それから大会等があれば大会等に足を運んで、生徒の活動の状況を確認をしております。それは学校の中で共有をいたしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

生涯学習課長と教育課長に聞いたけど、答えがない。だけど何回かやっておるということだから、あとでいつ何時誰と話をしてきたか、ちょっと出してくださいよ。私はちょっと目を通してみますわ。やってきたんなら、自動車の運行記録もあるはずだから、それもつけて誰といつ話をしてきたのか出してください。

で、学校の責任として、これはただの責任じゃなくて、責務って書いてるん。責務っていうのは責任と義務があるということだよ。あなた方その義務を果たしてきたのかどうか。そういうデータをちゃんと出してくださいよ。いいですか。

それと、先ほど答弁で聞いたら、指導主事にかかった人件費が5億4,000万円だと言いましたよね。これ19年間ですか、5億4,000万円。これは人件費だけで教育費の全体でいって学校教育に係る分を考えていくと、ことしの予算だけでも約10億円ぐらいあるんですよ。それを掲げていくと、19年という月日は膨大な予算を使ってやっておる。それでも学力を上げれない。いろんな問題が次々出てくる。私は指導主事として大丈夫かっていうことなんでしょうと思いますよ。私の時間がないんでちょっと端折っていきますけど、教育長、肝心なことを1つお聞きしますが、こんだけ予算を使ってて成果を上げれないというのは、糸魚川の子供が能力がないのか、あるいはそれに指導に携わる先生方の指導力がないのか、どちらですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

田原教育長。〔教育長 田原秀夫君登壇〕

○教育長（田原秀夫君）

お答えいたします。

今年度の中学3年生の学力が、少し全国平均また県より低いということからのご指摘であります。ここ数年のところで見ると、中学生も一時期よりは上向きになってきていたかなということも感じておりますし、小学生についても上向きあるいは全国平均並みというところがございます。今年度1年だけ捉えて、また過去に悪かったような方向に戻っていくという判断はいたしておりません。今まで取り組んできた各教科別の指導、それから子供への支援、そういうものが生かされてきていると思っております。

その上に3年前から、陰山先生の陰山メソッドによるものを追加をして、習慣化、集中化をする中で全体の学力向上に向けているところでございます。その結果については、すぐというわけではございませんが、続ける中で見てまいりたいと思っております。それから指導主事につきましては、必要な人数あるいは専門性のところで勤務していただいているところでございますが、学校との連携また県の教育委員会との連携、そういうところできめ細かく回っているところでございまして、私

といたしましては、必要な人数であり必要な人材であると思っております。

以上でございます。

○19番（高澤 公君）

おれは能力を聞いたん、能力。

○教育長（田原秀夫君）

申しわけございません。能力のことでございますが、子供は潜在的に能力はあると思っておりますので、それを引き出せるような形で自分の夢をかなえるような学力、体力、そういうものをつけるのが必要でございます。その中でも豊かな心の育成というものも大事だと思っております。そのために先生方が学校の中で力を合わせて、指導に当たっていただいているものと思っております。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（五十嵐健一郎君）

高澤議員。〔19番 高澤 公君登壇〕

○19番（高澤 公君）

私は子供の能力というのは、全国一緒だと思いますよ。それを上げてやれない、上げられないというのは、指導力不足だと思っております。ぜひ頑張ってやってもらいたい。糸魚川市にはゼロ歳から18歳までの一貫教育という大きな目標がある。それと、瞳輝く日本一の子供を育てようというこれ以上ないような目標がある、それに沿って一生懸命やってもらいたい。そうすれば子供だって伸びるはずですよ。ぜひ頑張ってください。

もう時間がないから私終わりますが、ちょっと質問と違いますけど、教育長長い間ご苦労さんでした。退職前にちょっと耳さわりの悪いことを申し上げましたが、お許しをいただきたいと思えます。私個人的には、田原教育長が非常に真面目で、一生懸命取り組んできたと思っております。長い間、大変ご苦労さんでした。ありがとうございました。

○議長（五十嵐健一郎君）

以上で高澤議員の質問が終わりました。

本日はこれにてとどめ、延会といたします。

大変ご苦労さんでした。

〈午後4時11分 延会〉

地方自治法第123条第2項の規定により署名する。

議 長

議 員

議 員